

まんだら通信

平成19年(2007)10月 佛誕2573年

295-0103 千葉県南房総市白浜町滝口1084
真言宗智山派 天香山 紫雲寺 高橋 龍渉
郵便振替 00120-2-43163 紫雲寺
TEL0470-38-4740/FAX 0470-30-5040
URL <http://www.awa.or.jp/home/ryusho/>
E-mail ryusho@awa.or.jp

新しい奨学生

つい先日、封筒の裏までびっしりと切手を貼った、分厚い書留の航空便が届きました。

中には英語の手紙と絵が二枚入っていて、娘に翻訳してもらいました。

私はスリ・ダンマ・シッディ・ダンマ学校の生徒です。

七月からアンギラサ師から奨学金を戴いております。どうも有り難うございます。父親はいません。母親がいますが、治らない病気に罹っています。

家は大変貧しく日々の糧にも困っています。母は病気のため働けないのです。

私には姉が一人います。彼女は八年生で秀才です。私は六年生です。

私たちは、毎月戴くお金五百ルピーを勉強のために使います。

私たちには芸術の才能があり、沢山の美術のコンクールで色々の賞品を貰いました。然し、才能を伸ばすための画材やお金がないのが残念です。

私の将来の夢は医師になることです。一生懸命勉強します。有り難うございます。

三宝のご加護がありますように。

K.Hiruni Swarnamali



また、お姉さんの方も同じような文面ですが、最後の方に

「私の家族みんなが、あなたの」親切に感謝しています。

私たちに寄せて下さったご好意を受けて、一生懸命勉強してあなたの国と私の国に対して貢献したいと思っています。

どうも有り難うございました。あなたに三宝のご加護がありますように。

Shasini Wathasala

と結んであります。

以前からの読者の皆さんはご存知ですが、『あそか基金』という世界一小さな教育基金を作っています。

微々たるものですが、私のお小遣いの一部をアンギラサ師が日本に来た時にお渡しします。

お盆にお参りに来た人や、夫婦の旅のために貯めた、五百円玉貯金を差し出して下さる方もあります。

アンギラサさんは、あちらの銀行に定期預金して、その利息を毎月五百ルピーずつ手渡します。元金の総額は漸く80万円程度でしょうか。

この二人で漸く、奨学生は12人になりましたが、日本より遥かに金利が高いといっても、多分、役に立つほどの金額ではないと思いますし、布施の心を実行している・などという大それた気持ちがあるわけでもないのですが、それでもこのようにお礼を言われると、文句なしに嬉しいなと思ってしまう。

いつか、スリランカに行く機会があれば、子どもたちの家を訪問したいと思っています。

ふれあいコンサート

前回お知らせした通り、去る10月6日(土)夕方から、恒例になった『ふれあいの会』主催の『ふれあいコンサート』を行いました。丸山地区安馬谷の福祉作業所『ふれあいハウス』では、手作りの菓子パンを売ったり、香りの良いコーヒーなどを配って下さいました。また、私の弟の嫁さんからは栃木壬生町の銘菓、貴船まんじゅうの差し入れもあって、和やかな演奏会でした。もっとPRして、多くのお客様に喜んで戴けると、もっといいのと思いました。



まんだら通信とあそか基金に有り難うございました

鴨川市 海福寺様・千葉市 北原様・館山市 小玉重一様・愛知県 竹島洋之輔様・白浜 岩澤梅子様・白浜 由木尾晋様・館山市 山川紀代様・豊島区 福原保子様・白浜 木曾様・千葉市 吉田駒吉様・富津 田中律子様・いすみ市 吉原正様・安西様その他匿名希望の方々。

上記は『まんだら通信』へのご寄付ですが、『あそか基金』にも匿名希望の何人かのご援助を戴きました。

お読み戴くだけで嬉しいことと思っておりますが、何よりの励ましです。

余滴

◆いつになっても涼しくならない9月でしたが、漸く本当の秋が来たようです。お元気でしょうか。

8月の中ごろから、お腹が空く時間になると、鳩尾(みぞおち)の辺りがシクシクして、「ことによると胃潰瘍の再発かな」と内心気掛かりでした。

先月16日、思い切って亀田病院で診てもらいました。

「5月のドックで内視鏡検査してますから、暫くは薬で様子を見ましょう。」と言って下さった年配のお医者さんは、余りモニタを見ず、問診と触診が多く、何となく安心できました。

矢張り、「お医者さんと坊さんは年配の方が安心」・・・なのですね。

◆先頃の『ふれあいコンサート』。

フルートの深津純子さん、タブラの逆瀬川健治さんはお馴染ですが、弦楽器シタールの辰野基康さんは初めてのご参加です。

インドとヨーロッパという、生まれも育ちも違う楽器ですが、演奏者の腕ということも勿論有るでしょうが、少しも違和感がないどころか、渾然一体としか言いようのない、素晴らしいひと時でした。

ただ、聞き手が30人足らずで何とも勿体ない話です。

日本広しといえども、ここでしか聞けないユニークな演奏会。

次の機会には是非どうぞ。

◆今月の野草。だらしないうちに名前が分からないのです。去年の今ごろ、富山地区の棚田のあぜで写したもので、シソ科の植物らしいのですが、図鑑で探してもピッタリというのが見つかりません。

秋の青空のようにハッとするような目立つ色でした。◆お塔婆は何のために上げるのですか、と聞かれました。難しく言えばキリがないでしょうが、「あなたのお蔭を忘れません。」というご先祖たちへの手紙・・・と言えばいいでしょうか。「心を形に」が趣旨ですから、いつでも何回でもということです。

2007/10/09 龍渉



台湾人、金美齡氏が語った日本人への苦言

6日午後、東京ビッグサイトで開催された日本会議・日本会議国会議員懇談会設立10周年記念大会で、元台湾総統府国策顧問の評論家、金美齡さんが語った挨拶について、政治部の後輩の原川貴郎記者が先日、次のようなメールを送ってくれました。

《阿比留 様..

こんにちは。今日、取材した日本会議設立10周年記念大会での、金美齡さんの挨拶(苦言、叱咤)は6分半の短さながら、寝不足の目も冴え、じつと聞き入ってしまうほど濃かったので、個人的に記録用のためおこしました。よろしければご一読ください。》

：われわれ記者がこうした集会の取材に行く目的は、政治家が何を話すかを聞くことにあり、民間の有識者がいかに有意義で面白い話をして、それはなかなか記事にはなりにくいのです。政府関係者や政治家が表明したことであれば、それは政府や党の方針を示していたり、後に政策課題に上つてきたりするのですが、民間人の場合はそういうことはないからです。

ですから、民間人の挨拶については、例えばICレコーダーに録音していても字に起こさないのが普通なのですが、原川記者はわざわざ起こし、私に送ってくれたというわけですが、私も一読して、日本人の現状への危機意識の薄さに関してなど非常に共感を覚える部分が多かったので、このブログで転載することにしました。以下が金さんの話です。

《皆さん、今日私は皆さんにお祝いを申し上げると同時に苦言を呈しに参りました。私は辛口の白髪の婆さんです。何を成し遂げたかというのを多くの方が発言なさいました。私は自省を込めて、私たちが何ができなかったかということをお話し上げたいと思います。》

今日ここに来るのに、ゆりかもめに乗って参りました。周りの景色には素晴らしい高層ビルがたくさん並んでおりました。ビルがどんどん大きく高くなっていくのと反比例して、人間の器はどんどん小さくなっていくような気がしてなりません。

今日ここへご参集くださった、国会議員の方々、大勢の国会議員の何分の一でしょうか。平沼会長、島村元農水大臣、このお二人は本当に日本の侍でございます。

郵政民営化の選挙のときに、島村農水大臣は、職を賭して反対なさりました。たつた一人反対した閣僚でございます。平沼超夫先生は、自分の反対の意思をあくまでも通し、今は無所属の身でございます。こういう信念のためにわが地位を賭すという、そういう国会議員、そういう閣僚が、今の日本の政治家の中にどれくらいいるのでしょうか。今日、民主党の国会議員、衆議院、松原(仁)先生がお見えになっております。参議院で大勝利をした民主党の議員たちは、小沢さんに反対でも口をつぐんで全部勝ち組に乗っております。

たつた11ヶ月の間にこれだけのことを成し遂げた安倍首相は、今、どんな気持ちで日々を送っているのでしょうか。なぜ、私たちはこの日本の宝である、真性保守の宝である、安倍首相をどうして守り切れなかったのでしょうか。

東京に何年ぶりかでやってきた台風の中、多摩川の中州から救出されたホームレスの男がいました。後日、テレビのインタビュで、「あれだけ避難せよと呼びかけられたのに、どうして避難しなかったか」と聞かれたときに、彼は一言、「大丈夫だと思つてました」。これが今の日本人の平均的なメンタリティーです。危機管理ゼロ。これだけの理不尽な国家に囲まれて、北朝鮮にわが同胞を拉致されて、今、横田ご夫妻の血のにじむような訴えを皆さん、お聞きになったはずですが、横田めぐみさんをはじめ、まだ多くの日本人が拉致されている北朝鮮のあの理不尽な国に、対話、対話、対話が始まろうとしております。こんなことを許していいんでしょうか。

「大丈夫だと思つてました」。危機管理ゼロ。国際社会において日本がリーダーシップを求められているという話がありました。日本は本常に、国際社会でリーダーシップを発揮するような国でしょうか。今は、そういう外交をしていますでしょうか。

簡単な理由を申し上げます。山下さんが国際柔道連盟の理事に落選しました。柔道発祥の地であり、ロサンジェルスオリンピックで金メダルを取った、日本の柔道界の宝だともいえるような山下さんが国際社会で通用しない。これもまた今の日本を象徴しております。内政問題においては危機管理ゼロ。自分たちが今、どういう状況に置かれているかということも気が付かない、(語気を強めゆつくりと)数多の愚かな大衆!

国際社会においては、ちゃんとした存在感を示すことができないような外交を展開し、またはそれぞれが存在感を示すような、そういう力強い国際社会への発言ができる人を生み出すこともできないような今の日本で、私たちはここでお祝い事をやっているのでしょうか。一歩前進二歩後退です。二歩前進三歩後退をしているような中で、私たちの責任は限りなく重く思います。

私たちが頑張らなくて一体どうなるんでしょうか、この国は。日本が危うくなれば、台湾の存在はひとたまりもありません。台湾が危うくなれば、日本の存在はひとたまりもありません。私は日台のために皆さんと一緒に頑張りたいと思います。お祝いはお祝いです。しかし、しっかりと反省を込めて、今日の一日を過ごしたいと思つています。これ以上の努力を、今まで以上の努力を、二倍も三倍も四倍も五倍も努力をしなければ、日本の将来は危ういと私は思っております。頑張りましたよ!(了)》

産経新聞の記者さん達が書いているブログがあります。

記事にならなかつた出来事や裏話など、参考になるお話が多く、勉強になります。ここには、阿比留瑠比さんのページに載つた金美齡さんの挨拶を、記者さんのお許しを戴いて転載しました。

金美齡さんは、沢山のご本を書き、テレビなどにも出ておいでのようなので、ご存知の方も多いと思いますが、見事な白髪の、魅力的な方ですね。

金美齡さんは台湾の人ですが、「日本の皆さんは、もっと自分の国に自信を持ちなさい。」といつも励まし続けています。

日本人、しっかりとしなさいと言つた人は上坂冬子さん、曾野綾子さんやドイツにおられるクライン孝子さんなど、みんな女の人が思い浮かぶのはどういふわけでしょうか。

保守派と言われる男の人もいる筈なんです。余り思い出せません。

ところで、新聞やテレビの言うことは無条件で正しい、と思いがちですが、決してそのようなことはありません。どこかのテレビの人気番組『あるある大辞典』でしたっけ、ウソばかりだったと言つた事件がありましたね。

平成元年、朝日新聞の記者が石垣島のサンゴに落書きをして写真に写し、「八〇年代の日本人の記念碑になるに違いない。百年単位で育つてきたものを、瞬時に傷付けて恥じない、精神の貧しさの、すさんだ心の。にしても、いったいK・Yってだれだ。」という説教つきだったそうです。

その後も相変わらずの記事内容なので、お金を払いながらバカになつては困るので、紫雲寺では先月、朝日新聞の購読を止めました。

先き頃の安倍内閣の時も、閣僚の後援会費の内幕がどうか、色々問題にしました。本来、このお金は税金ではない、つまり私的なお金の筈ですが、マスコミが『安倍叩き』に使いました。国会議員の役目は、教育の建て直しや外交など、国全体をどのようにするか、にある筈なのに『年金』や、ありもしない『格差』に話をすり替えました。

結果はご覧の通りになりましたね。

私たちは『自分の頭と心』で物事を判断する『大人の国民』になる必要があるのではないのでしょうか。